

地域創生シンポジウムを開催



地域創生などについて話し合われたシンポジウム

日本地域創生学会・地域創生実践総合研究所が主催する「ひと育て・まち育てシンポジウム」が2月24日、総合福祉センターで開かれました。

町などが共催し、経済産業省や環境省、北海道文教大学、東京農業大学、東京大学が協力。基調講演で専門家が、地域創生や脱炭素社会の実現の重要性などを解説しました。

宮坂町長は、エネルギー地産地消事業について紹介。「新町地区のデジタル栽培施設が間もなく完成するほか、太陽光発電や蓄電池を整備して公共施設に導入するなど、エネルギーの地産地消の実装を進めています」と現状を報告しました。

地域おこし協力隊活動報告会

地域活性化起業人と地域おこし協力隊の報告会が3月2日と3日、総合福祉センターで開かれ、31人が日ごろの活動や目標などを説明しました。

地域活性化起業人2人と、地域おこし協力隊29人（農業支援員6人、起業型6人、教育魅力化支援員3人、スポーツ振興支援員1人、協働型13人）が参加しました。それぞれ、写真などを使って活動を紹介しました。困りごとと解決サービス事業に取り組んでいる水丸和樹さん（協働型）は、「コミュニケーションを取りながら、町外への通院や買い物で困っている人に対応しています。今後、サービスを広げたい」と語りました。



日ごろの活動などについて報告する地域おこし協力隊



ドローンで輸送された支援物資

ドローンの実証実験

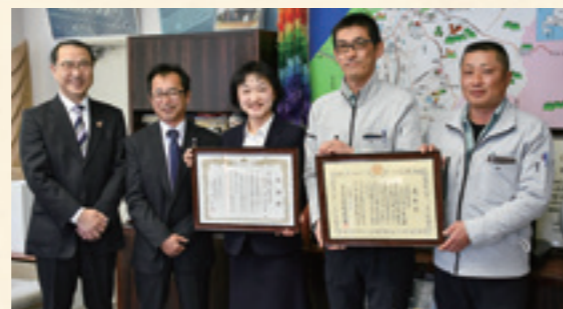
電通北海道など民間企業3社が共催したドローン（小型無人飛行機）による災害時などの物資輸送の実証実験が3月2日、鹿沼地区で行われました。

事前に飛行ルートがプログラムされたドローンを使い、「豊丘マナビィハウス」から5.2km先の「鹿沼マナビィハウス」まで、約10分かけて配送。段ボール箱に詰めたばんそうこうやペットボトルの水、ガーゼなどを自治会長に届けました。作業を見守った地方創生復興担当の大坪理事は「胆振東部地震では、物資輸送も苦勞がありました。新たな輸送手段として、実装に期待したい」と話しました。

北紘建設株式会社に感謝状を贈呈

町と町土地改良区は3月3日、地域貢献活動に尽力した北紘建設株式会社に感謝状を贈りました。

同社は、美里地区にある町土地改良区のコンクリート製農業用水路施設に町公式キャラクター「あつまるくん」と町土地改良区のシンボルキャラクター「トッチー」のパネル壁画（縦10m、横12m）を描き町のPRや社会を明るくする活動に貢献されました。



感謝状を受け取る北紘建設の皆さん



「あったかハートの集い」を開催



正しい姿勢について解説する丸山さん

町発達支援センター（事務局・住民課福祉グループ）主催の「あったかハートの集い」が2月17日、総合福祉センター2階の青年室で開かれ、約30人が専門家の説明に耳を傾けました。

理学療法士であつまルール整体院院長、町発達支援コーディネーターの丸山聡史さんが講師を務め、「子どものうちに身につける正しい姿勢」について講演しました。

丸山さんは「正しい姿勢とは、骨盤を立ててあげる。子どもに言葉で説明するのは難しいけれど、椅子に座った状態で『ペタ（足の裏をしっかりと地面につける）・ピーン（背中と頭を上へ伸ばす）・ポン（両手を足の付け根に置く）。』と掛け声をかけて動作を教えるとすぐに順応します」と説明。「正しい姿勢を習慣化することで、体に必要な成長を促し、精神発達にもつながります」と述べました。

鶴川漁協厚真支所ホタテ部会が町民還元でホタテを販売

鶴川漁協厚真支所ホタテ部会は好調な漁を反映して2月21日、Aコープ厚真店で浜厚真産の天然ホタテを特別価格で町民に還元販売しました。

漁場の環境が良く、大粒のホタテに育っているため市場でも好評で、旬の味覚を町民に味わってもらうために同部会が企画しました。用意したのは、1人2kgの袋詰めにして200人分、合計400kg。市場価格の4分の1程度の1000円とあって、店内には町民の列ができ、ずっしりと重いホタテに笑顔が浮かべました。



町民が列を作ったホタテの販売

JAとまこまい広域厚真町ハスカップ部会が町長に全国表彰を報告

JAとまこまい広域厚真町ハスカップ部会（長谷誠良会長、105戸）が公益財団法人中央果実協会主催の果樹技術・経営コンクールで全国果樹研究連合会会長賞を受賞し、2月21日に町長に受賞を報告しました。

同部会は、昭和52年に発足。栽培面積の拡大やスマート農業に取り組み、胆振東部地震後も被害を乗り越え「日本一のハスカップの町」としてブランド力の向上に努力している点などが評価されました。長谷会長は「高齢化や気候温暖化の影響も懸念していますが、さらなる品質向上をめざし、全国へPRしたい」と報告。宮坂町長は「これまでの努力が認められ、町としても大変うれしいことです。今後もブランド価値の向上をめざしてください」と受賞をたたえました。



受賞を報告する長谷会長（中央）と山口副会長



「あつまっぷる」がリングプルで車いす寄贈

設立25年目を迎えた町内のボランティア団体「あつまっぷる」（高橋康夫代表）は3月6日、町厚北地域防災コミュニティセンターならやまに車いすを寄贈しました。

車いすは、リングプルを集めて車いすと交換したもので、これまでに町内外の福祉施設などに10台寄贈しています。高橋さんは、高齢者の健康増進と心のケアを兼ねた体操教室でならやまを訪れた時に車いすがないことに気づき、寄付を思いつきました。

高橋代表は「集めたリングプルの中には、不純物が混じっていたり汚れているものもありますが、会員6人は協力者の善意を尊重して根気よく仕分けしています。皆さんの気持ちを届けました」と話すと、宮坂町長は「地道な活動に感謝します。有効に活用させていただきます」とお礼を述べました。



車いすを寄贈する高橋さん

プロの演奏家が児童・生徒に校歌のDVDとCDを寄贈



校歌のDVDとCDを寄贈する岩崎さん

特定非営利活動法人・奏楽（岩崎弘昌代表）は3月6日、町教育委員会に今春の小・中学校の児童生徒全員に校歌を収録したDVDとCDをプレゼントしました。

奏楽は、平成20年に発足したクラシック音楽のアンサンブルグループ。数多くのコンサートや音楽を通じた社会貢献活動に取り組んでいます。コロナ禍で校歌が歌えないことにヒントを得て「校歌プロジェクト」を考案し、校歌を歌うプロの映像と伴奏のみの2種類を無償で作成しました。

岩崎さんは「ステージ衣装を着て、演奏できる喜びを感じながら本番さながらに収録しました」と話し、遠藤教育長は「学び舎への思いを支えるのが校歌。卒業しても学校が再認識できる素晴らしい贈り物に感謝します」とお礼を述べました。

あつまバス株式会社は、自動車安全運転センターが実施する令和4年第3期優秀安全運転事業所表彰で最高賞のプラチナ賞を受賞しました。

同センターには、2000社以上の事業所が登録され、3年ごとに安全運転が査定されます。交通事故や違反があると点数がリセットされるため、長期間、安全運転を維持するのは難しいといわれています。今回、道内でプラチナ賞を受賞した7事業所のうち、路線バスや貸し切りバスなど旅客輸送全般を担う事業所は、あつまバスだけでした。

同社の伊藤亮統括部長は「実車中のドライブレコーダーの映像などを使いながら、社内で無事故の向上に努めています。名誉ある表彰を励みに、利用者の皆さんに安全で安心な輸送を提供したい」と話しました。

あつまバス株式会社が安全運転事業所最高賞を受賞



賞状と盾を手にするあつまバスの社員